

学校法人五島育英会 学校評価制度 2019 年度 実施報告書

学校名	東京都市大学二子幼稚園
校（園）長名	細川 秀夫

重点課題名 園児募集の安定	
重点事業目標名 魅力ある園づくりと効果的な広報活動の実施	
具体的施策 (1) 園の教育を効果的に発信する広報活動の展開 (2) 教育活動の充実と発展を図る (3) 社会的な保護者満足度を高める園づくり	
達成目標と具体的取り組み（要約）	達成状況・未達事項・課題
<p>(1) 園の教育を効果的に発信する広報活動の展開</p> <p>①説明会参加者等目標数値 園説明会参加者 150 名 11 月 1 日志願者 110 名</p> <p>・法人本部との情報共有及び東急グループ等との連携強化</p> <p>・保育見学会及び園説明会の工夫・改善</p> <p>②魅力ある幼稚園案内冊子の研究・作成</p> <p>・他園の冊子の研究、2020・2021 年度募集案内の作成</p> <p>・HP による広報活動の研究・推進</p>	<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会の状況 5/23 保育見学会 75 家庭（前年比 99%） 6/26 園説明会 181 家庭（前年比 115 %） 9/ 3 ミニ説明会 25 家庭 10/15 園説明会 145 家庭（前年比 103 %） 11/ 1 志願者 112 名（前年比 104 %） <ul style="list-style-type: none"> ・説明会及び入試状況を学事課に遅滞なく報告した。 ・二子東急会隔月定例会に出席、二子東急会及び都市大子育て支援センター「ぴっぴ」に募集ポスターの掲示を依頼した。 ・東急線駅貼り、東急バス車内側吊り広告を実施した。（10/1～14） ・9/3 にミニ説明会を初めて実施、25 家庭の参加があった。 ・園長のみの説明から園長・教頭・統括主任の 3 名に変更したことによって、保育・教育の様子を分かり易く伝えることができた。 ・定員 70 名を超える 72 名の新入園児を予定している。 ・他園の冊子を研究した上で、新しい募集案内の作成に着手し、2020 年 6 月中旬完成予定である。 ・HP に編入試験日時の随時掲載、2018・2019 年度学校評価を公開した。

<p>(2)教育活動の充実と発展を図る</p> <p>①子どもの活動の様子、成長の姿が分かる園行事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的に実施してきた行事の継続実施及び工夫・改善 ・園児の自発性・意欲を引き出す発表会活動等の実施 	<p>5月：「親子であそぶ日」192人（昨年179人）</p> <p>7月：「夕涼み会」451人</p> <p>9月：「敬老の日の集い」172人（昨年167人）</p> <p>本園の三大大行事</p> <p>10月：運動会 693人</p> <p>12月：子どもの発表会 291人（昨年287人）</p> <p>2月：子どもの音楽会 83人(2/4)（昨年 58人） 261人(2/5)（昨年245人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、子どもの日、七夕にちなんだ制作活動を行った。また、「親子であそぶ日」では、親子が相談して制作できるもの、夕涼み会の盆踊りは難易度を上げるなどの工夫・改善を行なった。 ・敬老の日の集い・運動会・子どもの発表会等の始めの言葉、終わりの言葉を年長園児が行なった。 ・発表会の題目や役決め等で、園児同士（年長）の話し合いの場を設けた。 ・廃材などを利用した自由制作、グループ活動での話し合いの場面等、自発性・意欲を引き出す環境設定の工夫を行なった。 <p>課題 なし。</p>
<p>(3)社会的な保護者満足度を高める園づくり</p> <p>①幼児教育無償化への対応及び社会的な保護者ニーズを的確に捉えた預かり保育等の子育て支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の預かり保育の実施・拡充 ・預かり保育希望者増への対応の検討及び預かり保育室の整備 <p>②都市大グループ、東急グループとの連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市大グループ校との連携による行事の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・夢キャンパスでの園児作品展示の検討・実施 ・東急スポーツシステムとの連携による課外活動の実施 	<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の預かり保育を初めて実施した。実施日数9日（利用人数215人） ・2019年度4月～3月の利用実人数3,108人 28.3人/日（昨年1,670人14.8人/日）。40人を超える日は、二部屋で実施した。そのため、室内で遊ぶ遊具を増やした。 ・人間科学部学生サポーターの園行事参加人数が延べ56人と増加した。（昨年度33人） ・都市大准教授による保護者対象講演会「子どもの遊びについて」を実施した。41人参加（昨年44人） ・都市大准教授等による教員対象講演会「発達障害について」を実施し、全職員が参加した。 ・等々力中高との連携による科学体験教室を実施した。（12月は実施、3月は中止となった） ・等々力中高ネイティブ教員による英語活動を実施した。（5月・10月・2月） ・教頭・統括主任による人間科学部2年生への講話を12月に実施した。 ・描画・廃材制作の作品展示を実施した。（園児80人の作品、展示期間10月1日～11日） ・昨年同様、年長の水泳教室（アトリオドゥーエ二子玉川で年10回）、東急スポーツコーチの指導の下、遊戯室で年中・年少の体操教室（8回の3クール、8回の2クール）、年長・年中の総合グラウンド活動を実施した。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前保育の水曜日実施に向けての課題検討 ・人間科学部のカリキュラム変更による学生サポーターの参加増への対応

重点課題名 教育の質向上	
重点事業目標名 教育課程の整備・検証	
具体的施策 (1) 教育課程・教育内容の整備と検証 (2) 教育内容の充実と発展を図る (3) 教員研修の充実と教職員の意識の向上を図る	
達成目標と具体的取り組み（要約）	達成状況・未達事項・課題
(1) 教育課程・教育内容の整備と検証 教育課程における園行事の位置付けの明確化 ・各各行事の狙い、達成目標、環境設定等の明確化 ・昨年度作成の多文化・調理・造形・音楽活動カリキュラムの検証	達成状況 ・週案の中に、狙い、目標、環境設定について明記することを必須とした。 ・新しい教育課程表は新設した教務部を中心に検証・変更案を作成し8割がた完成した。 課題 ・活動内容のスリム化。
(2) 教育内容の充実と発展を図る ①課題あそび等の検証 ・週案の振り返り事項からの課題抽出 ②体験活動の一層の充実 ・ライズ菜園、地域の農家における収穫体験の実施	達成状況 ・週案の形式を今年度より次のように変更した。 「感想と反省点等（実践を行っての振り返り）」の欄を「実践後の振り返り（ねらいが適切であったか、園児への援助、園児の成長の観点で記載する）」とした。これにより課題が明確になり、保育のPDCAサイクルに結び付けることができた。 ・ライズ菜園での種蒔き、成長観察、収穫体験を年長児で実施した。 4月 ジャガイモ・空芯菜種蒔き、5月 サツマイモ・落花生、6月 観察、7月 カボチャ・ジャガイモ・空芯菜収穫、10月卒園生保護者の経営する農地でのサツマイモの収穫体験、冬野菜は1月の大根収穫。 課題 なし。
(3) 教員研修の充実と教職員の意識の向上を図る ①外部研修会への積極的な参加 ・悉皆研修としての位置付け（都私幼教育研修会、世私幼協会主催の研修会等）による参加 ②園内研修会の定期開催 ・月1回の研修会の実施 ・研修会の担当部署の設置 ③園内組織の再編成 ・分掌組織の明確化による協働体制の実現	達成状況 ・都私幼・世私幼主催の研修会に全員参加した。（7月、8月、2月） ・宿泊新任研修会に新採用職員が参加した。（8月） ・この他、入試に係わる人権教育研修会、著作権 法研修会、食物アレルギー研修会に参加した。 ・5月サイバードリーム研修会、8月外部研修伝達研修会、9月PC研修会、10月にサイバードリーム研修会、11月に第1回ICTパステル研修会、2月に都市大教員による発達障害の研修を実施した。3月の第2回ICTパステル研修会は中止。 ・部署ではなく教頭担当とした。 ・教務部、総務・管理部、広報・保健・安全部を新設し、前年の一極集中の業務体制を協働型に変更した。 課題 分掌業務の推進と改善。

重点課題名 国際化(国際的に活躍できる人材の育成)	
重点事業目標名 多文化教育の推進	
具体的施策 (1) 多文化に触れる教育の充実 (2) 多文化教育のための教材研究 (3) 付属小ネイティブ教諭との交流の推進	
達成目標と具体的取り組み(要約)	達成状況・未達事項・課題
(1) 多文化に触れる教育の充実 ①幼児英語教育システム(サイバードリーム)による英語活動の実施 ・朝の会での10分間の英語活動の通年実施(年少・年中・年長) ②外国の文化を学ぶ活動の充実 ・海外経験の園児・保護者の協力を得て行う学年合同保育の実施 ・ハロウィン活動の充実	達成状況 ・年間を通して毎日、朝10分間の英語活動を実施した。 ・一時帰国した退園児による海外文化等の紹介を行なった。ベトナム(年長合同)、アメリカ(年少合同) ・3月の年少から年長までの縦割り給食活動は中止となり縦割り保育の研究はできなかった。 ・仮装した園児・職員の活動を実施した。 課題 なし。
(2) 多文化教育のための教材研究 ①幼児英語教育システム(サイバードリーム)の教材研究 ・本システムの効果的な実施方法の研究及び活用を通しての教材改善点の洗い出し ②多文化に触れる教材の充実 ・本園にある多文化教材の整理及び世界の絵本の研究推進	達成状況 ・10月30日に業者による指導法などの研修会を実施し、スキルの向上を図った。 ・サイバードリームに係る意見聴取を行った。 未達事項 多文化教材の整理、世界の絵本の研究は未達に終わった。
(3) 付属小ネイティブ教諭との交流の推進 ①都市大グループ学校間連携を活用したネイティブ教諭との交流の実現(目標年5回) ・付属小学校ネイティブ教諭を含めた都市大グループ校教諭による英語活動の実施	達成状況 ・等々力中高ネイティブ教員による年長対象の英語活動を実施した。(5月・10月・2月) 課題 ・ネイティブ教員による英語活動の増、年中への拡充。

重点課題名 食育活動	
重点事業目標名 食育の推進	
具体的施策 (1) 食育の充実を図る (2) 食育活動に必要な調理道具・器具の整備 (3) 食育に対する保護者への啓発活動	
達成目標と具体的取り組み（要約）	達成状況・未達事項・課題
(1) 食育の充実を図る ①土づくりから野菜の栽培・収穫・調理と一貫した食育活動の充実 ・園庭のプランターを活用した土づくり、栽培・収穫 ・ライズ菜園を活用した栽培・収穫 ・夏野菜、冬野菜の調理活動の実施 ②食に対する興味・関心を高める活動の実施 ・おやつ作り等の調理活動の実施 ・給食の状況把握と統計化（時間・食べ残し等） ・食事の時間における「食に対する感謝の念」の育成	達成状況 ・栽培・収穫した「なす・ピーマン・つるなしインゲン」を夏野菜の炒め物として調理した。（全学年） ・夏野菜、冬野菜と季節を区切って栽培した。 夏野菜：ジャガイモ・空芯菜・カボチャ 冬野菜：落花生・サツマイモ・大根 ・夏野菜：空心菜の炒め物、ジャガイモをお泊り保育のカレーの具材として利用した。 ・冬野菜：ブロッコリーのクリームシチュー、ほうれん草のピザ、かぶのスープ ・年少組でみかんゼリーの調理活動を実施した。3 学期カップケーキは臨時休園で中止。 ・芋ほり遠足で収穫したサツマイモを使った調理活動を実施した。（年少：茶巾、年中：スイートポテト） ・通年調査の結果、給食の完食率は低く、お弁当の完食率が非常に高い。完食率（給食・弁当）：年少（22%・91%）、年中（62%・98%）、年長（84%・100%）。 ・所要時間は、各学年 5 分～10 分ほど給食の方が長い。 ・園児のことばによる「いただきます。ごちそうさま。」の挨拶の励行。クラス毎にBGMを流すなど楽しく、落ち着いて食べる工夫を行った。 課題 給食の完食率の向上。
(2) 食育活動に必要な調理道具・器具の整備 ①調理器具等の整理整頓 ・調理器具等リストの作成及び保管場所の整理	達成状況 ・調理活動のスムーズな準備や充実のため、調理器具等リスト作成及び整理整頓・保管場所を明確にした。 課題 なし。
(3) 食育に対する保護者への啓発活動 ①園児の健康に留意した食生活の啓発活動の推進 ・幼稚園ブログ等を活用した食育活動の発信 ・保護者会等における園長講話 ・給食試食会及びアンケートの実施	達成状況 ・学年だより、先生ブログ及び懇談会等で保護者に食育の大切さを発信した。 ・昼食の実態調査結果を保護者会で報告した。 ・保護者対象給食試食会を 5 月 13、14 日に実施した。（年少組 70 人、年中長組 15 人参加）参加者全員からアンケートの提出があった。 課題 なし。

重点課題名 在園児保護者の満足度向上	
重点事業目標名 肯定的な感想・意見が得られる行事等の展開	
具体的施策 (1) 保護者の信頼が高まるような担任の育成 (2) 分かりやすいプリント作りなど保護者連絡の改善 (3) 行事等による保護者意見の次年度への反映 (4) 防災・防犯・園内事故防止等に係る設備、備品等の検証・点検・整備	
達成目標と具体的取り組み（要約）	達成状況・未達事項・課題
(1) 保護者の信頼が高まるような担任の育成 ①新採用を含めた若手教員の育成 ・初任者研修プログラムの立案及び実施 ・保育観察の実施（各学期1回） ・週案を活用した教育指導・助言	達成状況 ・初任者研修年間プログラムを作成し、実施した。保育観察、園長・教頭・統括主任による研修講義を実施した。 ・昼食活動（1学期）、制作活動（2学期）、音楽活動（3学期）の保育観察を行なった。 ・教頭・統括主任が週案を基にした指導・助言を行った。 課題 なし。
(2) 分かりやすいプリント作りなど保護者連絡の改善 ①適切で分かりやすい保護者宛のプリント作成 ・具体的で簡潔・明瞭、かつ心を繋ぐプリントの作成 ②ICTを活用した連絡システムの研究 ・メール等による欠席連絡や預かり保育申込システム等の研究推進	達成状況 ・起案形式を導入し、明瞭な配付文書となるよう校正の徹底に努めた。園だよりを通して保護者との保育・育児の意識化の共有に努めた。 ・園業務支援システム（パステル）を導入した。3学期からメールによる欠席連絡、アンケート提出ができるようになった。 ・3月の新型コロナウイルスによる休園時、家庭との連絡ツールとしてパステルの有効活用ができた。 課題 職員のICTスキルの向上。
(3) 行事等による保護者意見の次年度への反映 ①保護者意見の反映及びそれに対する説明責任 ・昨年度の改善可能な意見を踏まえた行事の実施 ・保護者会等における保護者意見の報告及び園としての基本的な考えの説明	達成状況 ・保護者会等において保護者の意見を報告するとともに園としての基本的な考えを説明した。 ・保護者意見を基にした改善事項 ①行事の際のペーパータオル設置 ②兄弟姉妹が在園する場合のお迎え控室の設置 ③保育参観の際の昼食場所設置 ④園文庫での親子による絵本選択 ・給食に生野菜を付けて欲しいとの意見があったが、給食は加熱したものに限定するという本園の安全最優先の考えを説明した。 ・年長保護者対象の満足度調査を始めて実施した。 ・業者による行事の写真撮影の際、業者のミスによりスナップ写真への苦情があり、保護者会等でその経緯について説明した。 課題 園行事の撮影方法の検討及び子どもの活動が優先で写真は付随するものという理解の浸透。

<p>(4)防災・防犯・園内事故防止等に係る設備、備品等の検証・点検・整備</p> <p>①防犯・防災の強化に係る設備・備品の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員扉の遠隔開閉操作化による防犯強化 ・保育室のロッカー等の転倒防止（耐震）の実施 <p>②園内外の怪我等の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我の月別統計を活用した怪我等の防止 ・遊具等、園内の安全点検記録の実施。 ・安全マニュアル等の定期確認と想定訓練の実施 <p>③食物アレルギー事故防止の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象園児一覧表の作成及びそれに基づく確実な食物摂取指導 	<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員扉の遠隔操作の電子錠化により、お預かりのお迎え時間を含めて、園児在園中は完全施錠となった。 ・耐震用滑り止めシートを全保育室のロッカーに設置した。 ・毎月の怪我件数（前年度比較）を職員連絡会議で報告し、怪我等防止への意識を高めた。年間怪我総件数 50 件。（昨年 107 件） ・新分掌の広報・保健・安全部が園庭遊具・施設、教頭・統括主任が基本マナー・保育指導のチェックリストを作成し、12 月からこれによる安全点検と指導事項の確認を開始した。 ・ブランコ・アスレチック・雲梯（太鼓橋）・鉄棒の下に衝撃吸収ラバーを敷設した。 ・安全マニュアル、AED のバッテリーの交換を 8 月に行った。毎月の避難訓練、園児引き取り訓練、2 月に不審者侵入想定訓練を行った。 ・アレルギーのある園児の対象食品一覧表を作成し、全職員が把握している。 ・4 月に食物アレルギーのある新入园児の対応について、個別に保護者・担任・園長で方針等を確認した。 <p>課題</p> <p>防災・防犯・事故防止等、園児を守る安全対策のさらなる充実。</p>
--	---

<p>園長による総括</p>
<p>①2020 年度園児募集では 72 名が入园予定である（定員 70 名）。これは例年手続き後の辞退が多くであるが、今年度は 12 月末までの辞退が 1 名と少なかったことによる。また、急な転勤等の退園も数多くあったが、随時の編入募集により 2019 年度末で年長 69、年中 70、年少 69 名と定員に近い在籍数を確保できた。</p> <p>②子どもの成長がはっきりわかる行事として「運動会、子どもの発表会、子どもの音楽会」を三大大行事として位置付けている。この行事の感想の自由記述欄は、「感動し涙がでた」「先生方の指導に感謝する」「年少の親だが年長になったときの姿を観るのが楽しみだ」という意見が数多くあった。また、今回初めて卒園児保護者対象に満足度調査を行なった。総合的な満足度は、満足が 91.2%、やや満足が 8.8%と高い数値であった。このことにより本園の教育活動は、保護者の期待に応え一定の評価を得たと判断している。</p> <p>③今年度も安全対策を重視した取り組みを行なった。職員扉電子錠化による遠隔開閉の導入によって、預かり保育の時間を含めて園児が在園中は完全施錠となった。また、園庭遊具の下に衝撃吸収ラバー材を設置し、落下時の怪我等の防止を強化した。保護者会でこれらの取り組みを説明したところ好意的に捉えて頂いた。さらに食物アレルギーの園児の事故防止についても該当園児の保護者と丁寧な面談を行い、保護者の意向と園の対応・対策を共有することができた。安全指導・対策にはこれからも様々な視点からの弛まぬ検討・取り組みが必要である。また、次年度の重要課題の一つは新型コロナウイルス感染防止対策であることは言うまでもない。</p> <p>④預かり保育は 50 名を超える日もあり、定員 20 名は子育て支援の観点から事実上撤廃している。保育室、教員の複数配置対応を取るため、普段の教材準備の時間が削られるなどのマイナス面がある。</p> <p>⑤都市大グループ、東急グループであるメリットは非常に大きい。他園にはない資源であり、活用方法を研究し、特色ある教育活動の充実には生かしたい。</p> <p>⑥今年度導入した英語機器サイバードリームはネイティブの音声と画像が同時に流れ、クラス全員と一緒に英語あそびができ、園児は毎日 10 分間の活動を楽しみにしている。保護者からも好評で、園説明会・募集活動でも本園の特長の一つとして広報している。</p> <p>⑦分掌組織による職員の協働体制の実現、職員一人一台の PC 配置及び園業務支援システム導入による ICT 化の実現、遊具・施設の点検票や園児への安全指導点検票、加えて扉の遠隔電子錠の設置、遊具の落下衝撃ラバーの設置、また教育活動では毎日 10 分間の英語活動の導入と形にすることが多かったことは評価できる。</p> <p>⑧次年度の課題として、安定的な園児確保がある。世田谷区 58 園の全体入园手続者数は昨年より 175 人減少の 2,889 人で初めて 3,000 人を割った。この傾向は今後も続く予想され、募集活動の厳しさは一層増すと考える。定員</p>

確保に向けてホームページ、学校（園）案内の充実を図り、本園の魅力を分かり易く発信し続けることが大切である。

学校関係者評価

- ・園内の保育活動環境の安全対策は、近隣の目線からもよくできていると判断し、大いに評価する。
- ・実施報告書の各項目を読むと全方的に称賛に値する。
- ・園児募集は、最重要課題のひとつである。少子化が背景にあり首都圏は地方都市に比べると緩やかであるが、確実に減少傾向にある。今回の報告は数値化し、より実感として把握出来るようになった。幼稚園経営は、データもさることながら、口コミ、弟妹関係、親子二代三代…と昔ながらの手法が大きいところがある。目に見えない部分で左右されてしまうので、十分に注意する必要があるだろう。
- ・他園のパンフがここ数年で変化しビジュアル化していることを踏まえ、園案内(パンフレット)の改定の必要性を昨年度指摘したが、早急に取り組んだことは評価できる。
- ・保護者ニーズに応えるため、今年度は夏季休業中にも実施している。社会状況の変化に柔軟に対応していくことは必要であるが教職員への過度な負担にならぬように人員的な配慮、業務のより一層の効率化を進めていただきたい。
- ・11月から導入した園業務支援システム（パステル）は新型コロナウイルスの対応でその能力を発揮したようだ。今後は更に活用し、園児個人管理や要録などの公的文書・各種届出書類の作成などにも応用していただきたい。また、事故状況などを貴園は記録統計を取っていると聞いている。大変重要なことで、統計的な指標により、情報(IT化)が共有になり教職員の経験年数の差を埋める作用となる。積極的にIT化導入を進めていただきたい。
- ・保育内容はここ数年の、「食育・多文化理解・カラダを動かす」の内容が充実している。東急グループとの連携強化が大きく他園にはない特色となっている。サイバードリームの導入など時代に即したものも取り入れるなど充実をはかっている。保育の基本(基本的生活習慣の確立や自己認識の入口・心の育ちなど)とこれからの課題(多文化理解教育・小学校教育との連携)の緩急が肝要である。
- ・新型コロナウイルスが蔓延する中、園でも対応が大変なことと思うが、これをチャンスととらえ、園行事の組み替えや新入園児の迎え方、衛生環境(ex 手洗い回数・ハンカチの使用状況の調査、看護師や保健師からの消毒・アレルギー児への対応のアドバイスを受ける)などこれまでの慣習を変えるきっかけになれば良いと思う。今後とも取り組みに期待する。